

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901183		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホーム やすらぎ (やすらぎユニット)		
所在地	旭川市東旭川町上兵村32-2		
自己評価作成日	平成23年2月14日	評価結果市町村受理日	平成23年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別性を重視し、個々の好みや望みを出来る限り叶えられるような生活を送れるよう配慮しています。特に食事に関しては、盛り付け・味付け・はもちろん個々の食事形態に合わせた刻み食やミキサー食等、職員が互いにアイデアを出し合い、味見を行いながら工夫を重ねています。食事の中から、季節感を感じられるような工夫を行っています。外出することが困難な方のために、地域のラーメン屋さんが年に2回ホームに来てくださり、作りたてのラーメンを皆さんで頂いています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901183&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<本人本位の暮らしへの支援>
利用者アンケートの実施や一人ひとりの思いや暮らし方、意向の把握に努め、職員間で情報を共有し、話し合いながら居室のベッドや家具の配置、ヒヤリ・ハットで事例研究をした安全対策等支援に努めている。また、法人及び事業所の看護・介護に関する内部研修を年間計画を立てて実践し、症状別支援方法や介護記録と介護計画の連動等についてケアサービスの質の向上に取り組んでいると共に法人内に専門講師を招いて看護師や精神保健福祉士等の資格取得へ支援をしている。

<地域とのつきあいと事業所の力を活かした地域貢献>
町内会にグループホーム新聞を回覧し、事業所の取り組みや地域交流を呼びかけたり、保育園児が来訪して演奏会の公演や中学校生徒との体験学習を通じた交流、看護学生の実習の受け入れや地域の人達への「介護教室」の開催等、地元と人々との交流・連携に努めている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取組みの成果 該当するものに印	項目	取組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場がある がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳を重視した基本理念の他、6つの基本方針を理解し、毎朝申し送りの時に唱和を行っている。理念の内容をミーティングで学習している。	法人の方針に基づき、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、朝礼時に唱和し、理念を共有してその実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会や避難訓練の他、町内会の古紙回収に参加している。ホームの夏祭りでは町内会の方々も出店を手伝わっていて、顔見知りの方も増えてきている。	地域交流会や介護教室の開催、夏祭りや芋煮会の開催で地域の人達に参加を呼びかけたり、町内会の廃品回収参加等地域との交流が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医師会の看護学生(専門課程)や中学生の体験学習の受け入れ、年4回のグループホーム新聞の発行や法人内の介護教室への参加を行い、認知症があっても地域で生活できる姿や日ごとの取り組みなどを発信している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員も加わり、2ヶ月に1度定期的開催している。消防職員による避難訓練や消火訓練を取り入れたりしている。入退居を含めホームの近況報告も行っている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に定期的開催し、議事録も整備している。また、身体拘束廃止委員会や事故防止対策委員会等からの活動報告や年間行事報告が行われ、具体的内容について意見交換している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の行う集団指導及び地域包括支援センターの主催の研修等には積極的に参加している。ホーム内での事故等の報告も速やかに行っている。	市担当者との連携の重要性について理解し、研修会参加や日常業務を通じて情報交換を行い連携を深めるように努めている。また、包括支援センターと協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、委員を中心に年に数回の高齢者虐待防止法の勉強会や職員に対しアンケートを行い身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会で不適切なケア、スピーチロック等事例研究や研修会を通じて管理者及び職員の認識の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心に高齢者虐待防止法の研修などに参加し、参加後は全スタッフへフィードバックを行っている。職員間で注意しづらい場合などは、投書箱へメモを入れて管理者に伝えるようなシステムがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会に参加し、学んだことを全スタッフへフィードバックしている。現在利用されている方はいないが、今後利用される方がいた場合には活用できるようにしたい。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明書を見ながら一つ一つ説明を行っている。十分な説明を行い、同意いただいている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの入口に意見箱を設置している他、苦情申し立て窓口の掲示も行っている。入居者の方々にアンケートを実施し、運営推進会議内でも意見交換をしている。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の意見箱を設置している。また、利用者及び家族に事業所独自のアンケートを実施し、サービス向上に活かしている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時やスタッフミーティングの時などに発言し易い雰囲気作りをしている。年に1回個人面談を行い意見や思いをくみ取るようにしている。	毎年の個人面談の実施やスタッフ会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、研修の機会の確保や法人内の予備校の開設等自己啓発への手厚い支援が行われている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の努力や実績、職務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。勤務の希望にも100%対応している。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会の参加のほか、毎月のスタッフミーティングにてスタッフ全員が勉強できる機会を作り、各研修に参加したスタッフのフィードバック等を行っている。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの主催の研修に参加し、同地域の他の事業所のスタッフと交流する場を持ち、互いに情報交換を行いサービスの向上を目指している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の時間を多く持ち、本人が困っていること、不安なことなどを傾聴し、家族やスタッフ間で情報を共有しながら信頼関係を築いていけるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも話す機会を多く持ち、不安なことや求めていることを一緒に考えたり解決できるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に本人と家族と十分に話し合い、ホーム内で出来ること、出来ないことを説明し、対応できない時は他のサービス利用も検討し対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や掃除等を一緒に行き、「教えていただく」というように意識しながら行っている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内の行事など一緒に参加できる場を提供し、出来る限り一緒に過ごしていただけるよう工夫をしている。外出や外泊の依頼や、協力・助言なども行っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培ってきた生き方や暮らし方、昔からの友人や知人と変わらずに交流できるようなよりよい関係を築いていけるような支援をしている。	家族や知人の来訪支援やお花見(キトウシ公園や義経公園等)、旭山動物園見学や紅葉狩り、農園の協力を得て野菜の収穫等馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係などを把握し、座席の配置を行っている。必要時にはスタッフが間に入るなど配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、定期的に面会に行ったり、行事の案内を出すなど関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アンケートを行ったり、日常生活の中から思いや意向、要望をくみ取り、出来るだけ叶えられるよう努力している。	センター方式の活用や利用者アンケートを実施して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や馴染みの暮らしを聞き取って生活する上での参考にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、出来ることや趣味活動などを無理のないよう行えるよう促している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング前には本人や家族の意向を伺い、現状必要な支援についてチームリーダーを中心に話し合いを行い出来る限り実現できるように支援している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や希望を反映している。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録、日々の様子などの変化がある時には詳細に記録をし情報の共有をし、ケアプランに生かしている。連絡ノートや個別の状況共有ファイルを使用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じた通院介助、早期退院の支援や空床時のショートステイなど、G・Hの持つ特性と柔軟性を活かした支援に努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる吹奏楽の演奏や舞踊、訪問歯科診療や消防署職員による防火訓練などを行い、安心して楽しく生活できるよう交流を図っている。町内会や地域の公共施設等に新聞を掲示していただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医今までの状況を理解している病院への受診、希望者には歯科往診やリハビリに通院するなど連携している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、常勤の看護師と医師の連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内には正看護師が勤務しており、24時間連絡が取れる体制が整っており、入居者の健康管理の支援を行っている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院との連携はもちろんの事、入居者が早期に退院できるよう情報交換を行い、状態変化にも柔軟に対応し、いつでも受け入れられるような体制をとっている。またスタッフが入院先へ面会に行き、疎遠にならないようにしている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を示し、健康なうちから終末期のあり方について本人や家族の意思を確認している。看護師を中心にターミナルケアの勉強会も行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、消防職員の救命救急やAED使用方法の講習などを年に1回受けている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回の避難訓練、消火訓練、法人全体の大規模災害訓練、自衛消防隊を組織するなどしている。町内会や家族、近隣の方々にも参加していただけるよう案内などしている。	開設当初よりスプリンクラーが完備している。また、年4回の火災避難訓練の実施や自衛消防訓練、大規模災害訓練、設備の定期点検も行われている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格を尊重した声掛けはもちろんの事、個人情報の書類の破棄などは慎重に行っている。個人記録の扱いも人目に触れないように行っている。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止、不適切なケアや接遇マナー等の研修を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフは入居者の声や思いを傾聴し、理解し、自己決定できるような声掛けや支援を行っている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩・レクなど希望を伺いながら行っている。起床や就寝、食事や入浴は本人の希望に合わせて行えるよう支援している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容室の利用や日々の生活の中で本人の好きな洋服を着てもらったり、行事などでは化粧をするなどしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや調理、味見などを一緒に行っている。食後の片付けや食器洗いなどスタッフと一緒にいる。本人の負担にならない程度に当番も行っている。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に下ごしらえや調理、味見や片付けをしている。また、水分・食事摂取量は記録している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分は本人の好むものを基本的に摂取していただいている。採血データを参考に看護師や管理栄養士と相談しながら、栄養状態や水分の摂取状況なども含め相談している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助により口腔ケアを行っている。必要に応じて口腔洗浄剤や舌ブラシを使用している。口腔ケアの研修にも積極的に参加している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや情報を共有・把握し、声掛けでの誘導を行っている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時・朝食前の牛乳や氷水の飲用や軽い運動を行い、それでも解消しない場合はサプリメントや下剤を使用している。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の健康状態を把握し、希望にあわせて入浴を楽しまれている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴を楽しめるように支援している。また、拒否の強い利用者には、個々にそった支援をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者主体の生活リズムを尊重し、日中の活動性を向上し、夜間良眠出来るよう支援している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服用している薬の効能、副作用を把握し必要時は看護師に相談している。温度版や服薬チェック表を使用し、マニュアルに沿って対応している。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った活動を促したり、役割を持てるような提案を行うことで、気分転換を図れるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って散歩や買い物など行っている。市外への外出や観光などを行ったり、家族と連携を取り、外出や外泊の支援も行っている。月に1度は外出も含めたレクも企画している。	家族との外出・外泊の支援をしている。また、一人ひとりの希望にそって、近隣散歩やスーパーでの買い物、お花見や紅葉狩り、回転寿しやバイキング等の外食で毎月、戸外に出かけられるように支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は、少額の金額を自己管理されている。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にはいつでも使用していただいている。手紙の投函や代読も必要に応じて行っている。年賀状や暑中見舞いなどを出している。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には絵や飾り物や花など、季節に応じた配慮を行っている。1人で過ごす場所も居心地よく過ごせるよう工夫している。巡回時には温度や湿度の管理も行っている。	雛飾り等の季節毎の飾りつけや椅子・ソファ、ベンチが配置され、談笑したりひとりになったり、思い思いに利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファやテレビがあり、個々の好きな場所に座って過ごせるように配慮している。夏はテラスにベンチを出しているため、気の合った人と過ごしている場面も見られる。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には本人の使いなじんだ家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせるよう工夫している。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、手作りの作品や家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには安全の為に手すりや見やすい看板があり、バリアフリーになっている。各居室前にはオリジナルの表札がある。テーブルやお盆にも記名し、スタッフと一緒に配膳できるようにしている。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901183		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホーム やすらぎ (こもれびユニット)		
所在地	旭川市東旭川町上兵村32-2		
自己評価作成日	平成23年2月14日	評価結果市町村受理日	平成23年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別性を重視し、個々の好みや望みを出来る限り叶えられるような生活を送れるよう配慮しています。特に食事に関しては、盛付け・味付け・はもちろん個々の食事形態に合わせた刻み食やミキサー食等、職員が互いにアイデアを出し合い、味見を行いながら工夫を重ねています。 食事の中から、季節感を感じられるような工夫を行っています。外出することが困難な方のために、地域のラーメン屋さんが年に2回ホームに来てくださり、作りたてのラーメンを皆さんで頂いています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901183&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者の特徴や意思を尊重しそれに伴った介護サービスを行えるような理念を作り、毎朝理念を唱和し日々の業務に取り組んでいる。 施設内に理念を掲示している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭・お祭等催し事に参加。 やすらぎ夏祭りには町内の方にお手伝いに来て頂いたり、やすらぎ新聞の配布をしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	やすらぎ新聞(年4回)を発行し、地域の方々に配布し、GHの特徴の理解を深めて頂く為の活動を行なっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。地域の方やご家族等に参加して頂き意見交換を行いサービス向上に活かせるよう努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価の結果を市町村に送付し公開している。 市町村の実施している研修会等への参加。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束によって受ける身体的・精神的弊害について学び、身体拘束の無いケアを実践している。職員へのアンケートを定期的に行い、スピーチロック・ドラックロック等について日々考えながら業務に取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等への参加をしたスタッフはその内容を全スタッフに周知できるよう、ミーティングで報告している。意見箱の設置で職員に苦情等を言い表せる機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について勉強会を開きミーティングで理解を深めている。 又、活用されている入居者さんがいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には家族や本人に説明を行い、質問にも応じ十分な話し合いを行い不安の解消に努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時の他、面会時にも相談・意見を聞き入れ、スタッフ間ですぐに話し合える様努めている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを定期的に開催しその中で意見交換を行いその都度話し合い、個人面談の中でも意見を言える場を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、各スタッフの思いや目標などを管理者が把握し、資格取得に向けたバックアップを行なっている。 勤務希望を取り入れた勤務表を作成している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修や講習会の紹介をし、各自が自己啓発出来るような体制が整っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研究会や講習会等での意見交換や名刺交換・情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人と出来る限り多く面談し、不安や疑問点を伺い、不安の解消に努めている。表情等にも注意して観察し気持ちを察知できるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、あらゆる機会を捉えてコミュニケーションを取るようし、家族の思いを引き出せるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHでの生活が1番適しているのか家族や本人、PSW等と話し合っている。他のサービス(インフォーマル・フォーマル)利用の助言も行なっている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的なケアではなく、共に協力し支え合いながら生活できる環境を作り、楽しみを共感出来る場を作っている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換をこまめに行い、家族・入居者・スタッフが一緒に過ごせる機会を設けている。外出・外泊等の相談を受け、その為の支援を行なっている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は随時可能であり、馴染みの関係が途絶えないよう手紙や電話のやり取りの支援も行なっている。面会時は又来て頂ける様雰囲気づくりを心掛けている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係が円滑にいく様見守り、時には介入し、円滑にコミュニケーションが図れる様支援している。ケアの統一でトラブルに至らない様スタッフ間でも情報交換を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に定期的に訪問したり、GHに再入居出来る可能性がある場合には情報交換を行ったりして関係が途絶えないようにしている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者アンケートを実施し、希望や意向を把握し取り入れ、出来る限り叶えられるような支援を行なっている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ、本人や家族に情報を提供して頂き、定期的に見直しを行い、スタッフ間でも話し合いながらこれまでの暮らしに近づけるよう支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムシートを活用し、それに基づき個々に合った暮らし方を把握し対応している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員の監理の元、入居者さんの現状に沿った課題を見出し、ケアカンファレンスにて情報交換を行い計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録の充実に努め全てのスタッフが情報を共有できるよう、連絡ノートや申し送り等で意見を出し合い、日々の変化を見逃さないよう観察し見直しを行なっている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、病院受診の負担の軽減、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続に臨機応変に対応している。(他科受診・OTやPTの個別リハビリ等)		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園児や町内会のボランティアの慰問や中学生の体験学習の受入。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診察が受けられるようにし、又必要時は送迎を行っている。かかりつけ医との連絡も密に行い急変時の対処法も事前に話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師が勤務しており、24H連絡が取れる体制が整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会へ行き、情報をこまめに収集し状態を把握しつつでも受け入れが出来る様努めている。 急変時はすぐに母体で受け入れ可能である。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について家族とスタッフ間とで意見交換できる場を設けている。 ターミナルケアの勉強会に参加したスタッフからの情報より、ユニットミーティングを開き意見を出し合いより良いケアを目指している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会へスタッフ・家族が参加し、迅速に対応できるよう訓練を実施している。 マニュアルの作成で全スタッフが周知できるようにしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	病院全体での大規模な避難訓練を定期的に行い、周辺施設との協力体制も整えている		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声掛けを行い、記録の扱いにも注意している。指示的・命令的な声掛けはしない。個人情報の破棄は慎重に行なう		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から思いをくみ取り、出来る能力を見極めながら、意思の尊重を一番に対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合では無く、張りあいや喜びを分かち合えるような過ごし方をし、個々に合わせた対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の美容室を利用したり、眼鏡や衣類等の購入の支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳準備・食器洗い・米研ぎ等、個々の能力に合ったお手伝いを一緒に行い、食事は毎食入居者さんと一緒に会話しながら頂いている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	形状の工夫・バランスを考えて1人1人に応じた対応をしている。(自助具の使用・とりみ剤の使用) 水分チェック表で水分量の把握等		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが不十分な方へは必要に応じて支援を行い、舌ブラシを使用して口腔内の清潔が保てるようにしている。 口腔ケアの研修会へ参加したスタッフからの意見交換。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、失禁の回数を減らせるよう、トイレ誘導や行動の観察を行っている。(排泄パターンシートの活用)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の氷水・牛乳・コーヒーを提供し一人一人に合わせ排便促進に努めている。 ホーム内をウォーキングする等適度な運動も取り入れ個々に合った便秘予防を見出している		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたい・入りたくないタイミングを合わせ、無理強いせずに又出来る限り希望に沿えるよう支援している。1番風呂に入れる工夫を行い、不平不満が出ないように対応している。 様々な入浴剤の使用。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状態・パターンを把握し、寝付けない時には温かい飲み物を提供したり、安心して頂けるよう側に寄り添い話をしたりして過ごしている。日中の活動量を増やし安眠を促す		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋がいつでも見れるようになっている。 変更時は副作用や症状の変化を注意して観察し記録に残して情報を共有している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お当番や趣味・特技に応じた役割を見出し、達成することで個々に合った楽しみ事を見つけ行なっている。嗜好品は無くならばすぐに購入し、昔からの習慣を続けていけるような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>戸外へ出掛ける機会を作り、散歩や買い物希望があれば可能な限り一緒に出掛け、普段なかなか行けない様な場所へグループ外出できる支援を行っている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者さんの能力に応じて、お小遣いの所持・管理もして頂き自ら支払いをされたりしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙や年賀状を出したり、必要であれば代筆を行っている。電話も希望があればいつでもかけられるようになっている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>時間に合わせ音や光を調節し、季節に合わせた創作物やお花の展示し、みんなで鑑賞出来るようにしている。又、家庭的な雰囲気作りを心掛けている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者さん同士が談話できる空間もあれば、廊下や玄関にベンチを設置し、1人になれる空間も用意されている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の好みの物や馴染んだ物、手作りの物等を自由に持ち込み、居心地の良い暮らしの支援を行っている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内バリアフリーであり手すりの設置もされている。家具やベッドの高さも一人一人に合わせて調節しており、過ごしやすく且つ安全に配慮した環境作りを支援している。</p>		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27 やすらぎ	記録の記入について 本人の背景や状況も含め記入する為のスキルアップ及び勉強が必要	誰が見てもわかり易い介護記録を書く	記録の重要性や内容の勉強会を行う。申し送り時などを通して話し合いなどを行う。	3ヶ月
2	34	緊急時の対応(救急救命時など)	初期対応や応急手当や処置の理解 情報を正確に相手に伝えられる	勉強会を開催し、スタッフ個々のレベルに合わせたシュミレーションを行う。ケースバイケースに合わせて動け、情報収集できる体制作りを行っていく。	6ヶ月
3	23	・日々の暮らしの中で、時間が経つにつれて職員本位の生活になり、それに気付かずに過ごしてはいないだろうか。	・一人一人の思いや意向を再確認し、現状のサービスだけではなく、個々が満足出来る様な支援を行う。	・アンケートを実施し最新の思いや希望の把握 ・家族の協力も得ながら実現に向けての取り組み	6ヶ月
4	27 こもれび	・入居者さんの情報をより具体的に、解り易く記録を行う。 ・介助方法のばらつきを無くし、支援目標の統一化を図る。	・誰が見ても解り易い記載内容で、最新の情報を全スタッフが把握し、支援の目標を定めケアの充実に努める。	・入居者さんの情報(個別)ノートの活用 ・勉強会の実施(介護記録について)	3ヶ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。